

暖か	暖かくなればの予定ありにけり 暖かくなればと思ふ予定表	2020. 4. 14	浅蜷	ざくざくと浅蜷が浜の砂の中	2016. 3. 4
	暖かくなればと思ふことばかり	2020. 4. 14		ざくざくと浅蜷が浜の浅蜷かな	2017. 11. 5
霞	寧楽と書けば唐天竺や春霞	2019. 11. 4		ざくざくと浅蜷が浜と言ひつべし	2018. 12. 3
	奈良山も唐天竺も春霞	2019. 11. 21		ざくざくと浅蜷が浜へ来てみれば	2020. 3. 17
	奈良山に唐天竺に春霞 奈良山の唐天竺の春霞		蝶	ざくざくと浅蜷が浜と申さばや	
春の雪	春雪のいま本降りの暗さかな	2020. 3. 15		蝶々のひらひら春を越えかねて	2020. 3. 17
	春雪のいま本降りの暗みかな			ひらひらと蝶々は春を越えかねて	
	春雪に本降りのあり暗みたり	2020. 5. 30		ひらひらと蝶々は春を越えられず	
	春雪のいま本降りに暗みたり		燕	ビル裏は配管の巣や燕来る	2020. 3. 10
	春雪のいま本降りや暗みたり			ビル裏に配管の巣や燕来る	2020. 3. 21
	春雪の本降りとなり暗みたり 本降りに暗みたりけり春の雪		蝌蚪	目の玉は二つのままに蝌蚪蛙	2019. 11. 12
山笑ふ	山笑ふ危ない橋を渡りけり	2020. 3. 9	猫の子	目の玉の二つのままに蝌蚪蛙	2020. 3. 7
				川沿ひのアパートの窓子猫ある	2020. 3. 25
耕し	耕して鋤ねつとりと濡れてをる	2020. 3. 12		川沿ひの二階の窓に子猫をる	
	耕して鋤ねつとりと濡れて来し			川沿ひの二階の窓に子猫鳴く	2020. 5. 8
	耕して鋤ねつとりとしてきたる			川沿ひの二階屋の窓子猫鳴く	2020. 5. 14
	耕して土立体となりにけり			川沿ひの二階屋に鳴く子猫かな	
	耕して土の平面立体に			川沿ひのアパートに鳴く子猫かな	
	耕して平面の土立体に			川沿ひに子猫の見ゆるバルコニー	
春休	よくしやべる子に耳貸して春休	2020. 3. 15		川沿ひに子猫顔出すバルコニー	2020. 5. 22
	おしやべりの子に耳貸して春休			川沿ひに子猫の出づるバルコニー	
	道に書くチョコレイトや春休	2020. 5. 28		川沿ひや子猫の見ゆるバルコニー	2020. 5. 30
	呪文の如くチョコレイトや春休			土手行けば子猫の見ゆるバルコニー	
涅槃会	天井に届く悲しみ涅槃図絵	2020. 3. 22	春の草	土手ゆけば子猫のみゆるバルコニー	
	泣いて泣いて色の褪せたる涅槃図絵			春なれや子猫のみゆるバルコニー	
	泣き泣きて色の褪せたる涅槃図絵			川沿ひのバルコニーより子猫出づ	
	涅槃図のひねもす泣いてみたりけり			土手ゆけば子猫の見ゆるバルコニー	
	涅槃図の畳一枚分悲し			生家跡には一面の春の草	2019. 11. 30
	泣き果てて色の褪せたる涅槃図絵	2020. 5. 30	梅	梅咲くや医者のおの徹夜明け	2020. 3. 16
泣き果てて褪せたる色の涅槃図絵			白梅や医者のおの徹夜明け		
泣く程に色の褪せゆく涅槃図絵	2020. 5. 31		紅梅や医者のおの徹夜明け	2020. 3. 17	
泣く程に褪せゆくまに涅槃図絵			梅蕾む医者のおの徹夜明け		
涅槃図絵涙ながらに褪せゆくも			梅の香や医者のおの徹夜明け		
仏生会	仏生会桜餅など良からずや	2020. 4. 14		梅が香や医者のおの徹夜明け	
				梅匂ふ医者のおの徹夜明け	
				梅匂ふ若きドクター徹夜明け	2020. 3. 21
				梅匂ふ若き外科医の徹夜明け	

花	<u>ひらひらと花びらは春越えられず</u>	2020. 3.20	西日	わが魂は西日を受けしポストやも	2020. 1.28
	<u>これは花これは花びらひらひらと</u>	2020. 3.22		わが魂は西日を受けしポストなり	
	<u>花満ちて風なき空にひらひらと</u>	2020. 5. 8		吾輩は西日に立てるポストなり	
	<u>ほのかなる匂ひの花の首飾り</u>	2020. 5.31		吾輩は西日に立てるポストかも 吾輩は西日に暑きポストなり 吾輩は西日に熱きポストなり 吾輩は西日に赤きポストなり 吾輩は夕立に立つポストなり 吾輩は年の瀬に立つポストなり <u>吾輩は西日に立てる赤い箱</u>	2020. 1.29 2020. 5.29
泉			ころころと泉の底を転げをる ころころと泉の底の小石かな <u>ころころと泉の底で転げをる</u>	2020. 5.23	
出水			電柱や出水の中に灯を点す 電柱や出水の道に灯を点す 電柱や出水の町に灯を点す <u>電柱が出水の町に灯を点す</u>	2019.12.20 2020. 5.30	
白玉			白玉を放てし氷水を捨つ 白玉を放ちし氷水を捨つ 白玉を冷ませし氷水を捨つ <u>白玉を冷やせし氷水を捨つ</u> <u>白玉の熱きを冷やす氷水</u> 白玉を一つ味見のやうなこと <u>白玉の熱きを冷ます氷水</u> 白玉を冷ましつ味見のやうなこと 白玉を冷まし味見のやうなこと 白玉を冷ましつ一つ味見かな <u>白玉の熱きを放つ氷水</u> 白玉を冷ましつ一つ味見もし 白玉を冷ましつ又味見もし 白玉を冷ましつちよと味見かな 白玉を冷ましつちよと食べてみる 白玉を冷ましつ一寸食べてみる 白玉を冷ましつちよと摘みたる 白玉を冷ましつちよと摘みたり 白玉を冷ましつちよと摘みもし <u>白玉を冷ましつちよと掴みもし</u>	2020. 2.11 2020. 2.12 2020. 3.13 2020. 3.14	
籐椅子			<u>埒もなく旅の疲れの籐寝椅子</u>	2020. 5.23	

ビール	バスのドア開くやうな音缶ビール	2019.12. 1	プール	教室にプール終りし子がぞろぞろ	2020. 2.18
	ボンと抜きプシュと開けるはビールなり	2020. 5.16		教室にプールを終へし子がぞろぞろ	2020. 3.15
	ボンと抜くかプシュと開けるか生ビールなり			眠たさのプールのあとの授業なり	2020. 3.17
	ボンと抜くかプシュと開けるか夜のビール			うつらうつらプールのあとの授業なり	
	ボンと抜くかプシュと開けるかビール干せ			うつとりとプールのあとの授業なり	
	ボンと抜き足らぬビールはプシュと開け			うらうらとプールのあとの授業なり	
	ボンと抜き、足らぬビールはプシュと開け			教室にプールのあとの湿りあり	
	ボンと抜き、足りぬビールはプシュと開け			教室にプールを終へし湿りあり	
	ボンと抜き足りぬビールはプシュと開け			教室にプール直後の湿りあり	
	ボンと抜くビール足らずばプシュと開け			教室にプール帰りの湿りあり	
ボンと抜くビール尽きればプシュと開け		プールから水の香の子がぞろぞろと			
ボンと抜くビールが尽きてプシュと開け		水の香のプールを終へし子がぞろぞろと			
ボンと抜くビール家ではプシュと開け	2020. 5.17	水の香のプール名残の子がぞろぞろと			
音に聞く古今の麦酒ボンとプシュ		教室にプール名残の湿りあり			
新茶	老兵の昔語りや古茶新茶	2020. 3.12	水の香のプール名残の子が通る		
	古茶といふ音の響きも良からずや		子らの顔前の授業はプールらし		
	古茶といふ音の響きも古茶らしく	2020. 5.30	どの顔もプールの授業終へし顔		
古茶	言葉にも出廻らしのあり古茶淹れる	2020. 3. 9	どの顔もプールの時間終へし顔		
	出廻らしのやうな言葉や古茶新茶	2020. 3.10	子らの顔プールの疲れありありと		
	出廻らしのやうな言葉も古茶新茶		どの顔もプール疲れよ授業中		
	出廻らしのやうな言葉に古茶新茶		どの顔もプール疲れの授業なり		
	出廻らしのやうな箴言古茶新茶		水の香のプール帰りの家族連れ		
		水の香のプール帰りの親子連れ			
		水の香のプール帰りの親子らし	2020. 3.19		
		水の香のプール帰りの五六人			
シャワ			ゆるゆると起きてシャワーや昼餉前	2020. 5.18	
			ゆるゆると起きてのシャワー昼餉前	2020. 5.30	
			ゆるゆると起きてシャワーを昼餉前		
蟻			蟻はまだ眠れるころか蝉穴を	2014. 8. 4	
			しづかなる蝉の穴にぎはひの蟻の穴	2020. 3.22	
			蝉の穴しづか蟻の穴にぎやか		
			蝉の穴少し離れて蟻の穴	2020. 4.23	
			蟻の穴少し離れて蝉の穴	2020. 6.21	
		蟻はまだ眠れるころか蝉出づる	2020. 6.23		

毛虫	割箸の先の毛虫のくねくねと 割箸で抓む毛虫のくねくねと 割箸で抓む毛虫の巻き付きぬ 割箸の先に巻き付く毛虫かな 割箸の先に毛虫の巻き付きぬ 割箸の先に毛虫が絡みつ 割箸の先ぞ毛虫が絡みつ <u>割箸の先に毛虫がくねくねと</u>	2020. 5. 18 2020. 5. 29 2020. 5. 30	秋 秋深し 行く秋 露けし	<u>呪文の如くチョコレイトや露地の秋</u> 山の名の川の名の酒秋深し 山の名の酒川の名の酒秋深し <u>秋深し酒の名に良き山や川</u> 行く秋の海に広がる河口かな 行く秋の海に広がる河の果て <u>行く秋や海に広がる河の果て</u> <u>切株を囲む走り根露けしや</u>	2020. 5. 29 2020. 5. 31 2020. 5. 31 2020. 1. 3
火取虫	<u>明るさの明日を信じて火取虫</u>	2020. 5. 22	流れ星	<u>流星や書かねばならぬことばかり</u>	2020. 4. 29
蝉	<u>秋冬の愁ひはなけれ蝉の声</u>	2020. 5. 31		流星や書かねば消ゆること多し	2020. 5. 29
万緑	万緑の危ない橋を渡りけり 万緑の中の危ない橋渡る 万緑の中の危ない橋渡る 万緑の危ない橋を渡るべく 万緑の危ない橋を渡らんと 万緑の中の危ない橋わたる 万緑の中や危ない橋わたる 万緑の中の危ない橋わたる <u>万緑の中に危ない橋かかる</u>	2020. 3. 9 2020. 3. 12 2020. 3. 13 2020. 3. 19 2020. 3. 23 2020. 5. 8 2020. 5. 31	流星や書いて忘れて幸せに <u>流星や全て忘れて幸せに</u> 流星や奇跡のごとく続々と <u>流星や奇跡はある日突然に</u> 秋灯 遠花火 古酒	流星や書いて忘れて幸せに <u>流星や全て忘れて幸せに</u> 流星や奇跡のごとく続々と <u>流星や奇跡はある日突然に</u> 秋の灯の赤き点滅塔高し 見えねども何千人の遠花火 遠花火何千人もゐるならむ <u>遠花火虫けらどもは闇の中</u> <u>古茶は夏古酒は秋なり秋ぞよき</u>	2020. 5. 30 2020. 5. 31 2020. 5. 31 2020. 5. 31
柿若葉	柿の蒂黒く残りし若葉かな 柿の蒂黒く残りし柿若葉 柿の蒂の黒く残りし柿若葉 柿の蒂の黒そのままに柿若葉 柿の蒂の黒きに映ゆる柿若葉 柿の蒂の黒きに混じる柿若葉 柿若葉ところどころに蒂残る 柿若葉ところどころに残る蒂 <u>柿若葉ところどころに蒂の黒</u> 柿若葉隠しもならず蒂の黒 柿若葉去年の未練の蒂の黒 柿若葉去年忘るなと蒂の黒 柿若葉まだ点々と蒂の黒	2020. 3. 22 2020. 5. 29 2020. 5. 30 2020. 5. 29	新豆腐 夜なべ 秋の蝶 鴟 鉦叩	切り出して柱のごとし新豆腐 切りだして柱のごとし新豆腐 <u>切り出して柱のごとき新豆腐</u> 少しづつこつこつ夜業の時計かな 少しづつこつこつ夜業の時計なり 少しづつ進む夜業の時計なり こつこつと夜業の人の五六人 少しづつ進む夜業のかそけき音 少しづつ進む夜業の幽き音 秋蝶は春を知らねどひらひらと ひらひらと春を知らざる秋の蝶 <u>鴟鳴くや泣き出しさうな空の色</u> 一十のやがて百千鉦叩	2020. 5. 19 2020. 5. 30 2020. 1. 20 2020. 1. 29 2020. 3. 14 2020. 3. 21 2019. 11. 24 2020. 5. 26
新緑	新緑の危ない橋を渡りけり	2020. 3. 9	雁 菊 草の花	雁のこゑ揃ふでもなく途切れなく <u>畦をゆく白き軽トラ雁渡る</u> 金賞の菊を労ふ水少し 金賞の菊労うて縁側へ 金賞の菊を労ふ日向ぼこ 金賞の菊の余生や日向ぼこ 引かれ行く牛の筋骨草の花	2020. 5. 31 2019. 12. 1 2019. 12. 12 2019. 12. 4

コスモ	引かれ行く牛の筋骨秋桜	2020. 1.28	氷る	山一つ氷つて昼と夜とかな	2016. 3. 5
ス	引かれ行く牛の貫禄秋桜	2020. 1.29		山一つ氷つてみたる昼の月	
熟柿	皺寄せの熟柿の皮のひとつところ	2020. 3.21		山一つ氷つてみたる昼の酒	
	皺寄せて熟柿の皮のひとつところ			山々の氷つて海は氷らずに	2019.10.17
	ひとつところ皺の寄りたる熟柿かな			湖の氷つて雪の白さなり	
	ひとつところ皺寄せのある熟柿かな			氷りたる湖に雪降り止まず	2020. 3.16
	ひとつところ皺美しき熟柿かな		小春	小春日の膝の日差や猫が邪魔	2020. 6.29
団栗	団栗を転がしてみる机かな	2020. 5.31	冬の日	膝に来る冬の日差や猫が邪魔	2020. 5.24
紅葉	真つ暗な紅葉の宿や月もなし	2020. 5.31		膝に来る冬の日差や猫も来て	2020. 5.30
	真つ暗な紅葉の宿に月もなし		雪	木のあはれ草のあはれを雪に消す	2020. 5.31
			雪女	雪女時にはゆきじよゲレンデに	2019.11. 6
				雪女ゆきじよとなりてゲレンデに	
				火事跡の黒き柱や雪女郎	2019.11. 6
				火事跡の黒き柱や雪女	
			氷	静かさや氷らんとして夜の水	2020. 3.13
				野に山に氷るつもりの水たまり	
				野に山に氷らむと夜の水たまり	
				町中に氷らむと夜の水たまり	
				店先に氷らむと夜の水たまり	
				星浴びてまだ氷らずに静かな水	2020. 3.15
				星浴びてまだ氷らずにあたりけり	
				星の夜のまだ氷らずにあたりけり	
			風邪	悲しさや風邪の母から引き離され	2020. 5.24
				涙ころころ風邪の母から引き離され	2020. 5.29
				無残やな風邪の母から引き離され	
			嚏	幼子も嚏の時は立て続け	2019.11. 4
				幼子も小さき嚏を立て続け	2020. 5.29
			毛糸編	おしやべりの子に耳貸して毛糸編み	2020. 3.15
			炬燵	結局は初稿に戻る炬燵かな	2020. 3.18
				結局は初案に戻る炬燵かな	
			焚火	みづからをなきものにする焚火かな	2020. 3.15

日向ぼこ	金賞の菊の余生と日向ぼこ	2019.12.12	元日	元日の猫の欠伸も目出度けれ	2020. 5.29
こ	日向ぼこ心はここにあらざりし	2020. 5.21	元旦	元旦に一句を得たる目出度さよ	2020. 5.24
	日向ぼこ心はここにあらねども		去年今	去年今年物音もなき真の闇	2020. 5.22
	呼んでみて眩しさうなる日向ぼこ	2020. 5.23	正月	正月の猫の欠伸も目出度けれ	2020. 5.24
	眠さうで眩しさうなる日向ぼこ				
	うとうとと眩しさうなる日向ぼこ				
	こちをみて眩しさうなる日向ぼこ				
	日向ぼこ心ならずも温まる				
	日向ぼこするつもりなく温まる				
	日向ぼこするつもりなく温もりぬ				
ラグビー	翼なきラグビーボール舞ひ上る	2020. 5.21			
ー	ラグビーやボールも汗に塗れたる				
	ラグビーのボールも汗に塗れたる	2020. 5.23			
	抱へられラグビーボール汗みどろ	2020. 5.24			
	抱かれてラグビーボール汗みどろ				
	いだかれてラグビーボール汗みどろ				
寒鴉	何食つて声の大きな寒鴉	2020. 5.24			
	何食つて大きな声の寒鴉	2020. 5.26			
寒雀	ビル裏は配管の巣や寒雀	2020. 3.11			
落葉焚	みづからをなきものにする落葉焚	2020. 3.16			
水仙	水仙にエアコンの風あてぬやう	2020. 5.24			
	水仙を活けて書斎のひんやりと				

行く年	いつの間に追ひ越すやうに年歩む	2020. 5.23	御降	御降の後の日和の定まりぬ	2020. 5.24
	音もなく追ひ越すやうに年歩む		初富士	初富士のありあり見ゆる旅の宿	2020. 5.26
	大足の足音もなし年歩む			初富士のありあり見ゆる湯宿かな	
	大いなる足音もなし年歩む			初富士の大浴場に仁王立ち	2020. 5.31
	大いなる足音聞かん年歩む	2020. 5.24		初富士の大浴場にうとうと	
	大いなる足音聞かむ年歩む			初富士の大浴場を響かせて	
	年歩むその足音を聞かんとす		歌留多	歌留多取る水仕の冷たき手が上手	2020. 5.24
	行く年のその足音を聞かんとす	2020. 5.25		歌留多取る水仕で冷えし上手な手	
				歌留多取る母の冷たき手が上手	
				歌留多取母の冷たき手が攻める	
				歌留多取り母の冷たき手が攻める	
				歌留多取り母の冷たき手が強し	
				歌留多取る水仕で冷えし手が強し	
				歌留多取る水仕で冷えし手が早し	2020. 5.31
		双六	双六の波乱万丈忘れめや	2020. 5.25	
			双六の波乱万丈忘いつかまた	2020. 5.30	
		宝船	遠浅の沖に来てゐる宝船	2020. 5.30	
		初日記	日月に文字を書く音初日記	2020. 5.24	
			日月を記す一行初日記		
			一行の即ち一句初日記		
		寝正月	耳糞の出たがつてゐる寝正月	2020. 5.26	
			耳糞の零れんとする寝正月	2020. 5.30	
			耳くその零れんとする寝正月		
			耳くその零るる程に寝正月	2020. 5.31	
		年賀状	同胞の老いて目出度き年賀状	2020. 5.31	
			友らみな老いて目出度き年賀状		
			友らみな老いて目出度し年賀状		
		初髪	初髪の銀髪いよよ尊けれ	2020. 3.25	
			初髪の金髪娘和服着て	2020. 5.29	
			初髪の金の娘に銀の祖母		
		初旅	初旅の大浴場に富士を見て	2020. 5.26	
			初旅の大浴場に富士みゆる		
			初旅のありあり富士の見ゆる宿		

古日記	白紙にはかへることなき古日記	2020. 2. 4	福寿草	水仙は卓に福寿草縁側に	2020. 5.31
	白紙にはかへる術なき古日記			卓の水仙縁側の福寿草	
	白紙には帰る術なき古日記	2020. 3. 7			
	白紙には返る術なき古日記				
	白紙へと返る術なき古日記	2020. 3.13			
	白紙へと戻る術なき古日記	2020. 3.17			